

○ 経済産業省
国土交通省 告示第四号

租税特別措置法施行令（昭和三十三年政令第四十三号）第二十六条の二十八の五第七項の規定に基づき、国土交通大臣又は経済産業大臣が財務大臣とそれぞれ協議して定める金額を次のように定めたので、同条第八項の規定により、告示する。

平成二十一年三月三十一日

経済産業大臣 二階 俊博

国土交通大臣 金子 一義

一 租税特別措置法施行令第二十六条の二十八の五第四項の規定に基づき、租税特別措置法（昭和三十三年法律第二十六号）第四十一条の十九の三第三項に規定する一般断熱改修工事等の標準的な費用のうち、同条第十一項第一号に規定するエネルギーの使用の合理化に資する改修工事の標準的な費用の額として国土交通大臣が財務大臣と協議して定める金額は、次のイ又はロに掲げる場合に応じ、それぞれイ又はロに定める金額（一般断熱改修工事等を行った家屋の当該一般断熱改修工事等に係る部分のうちその者の居住の用以外の用に供する部分がある場合には、当該金額に、当該一般断熱改修工事等に要した費用の額のうちに当該居住の用に供する部分に係る当該一般断熱改

修工事等に要した費用の額の占める割合を乗じて計算した金額（当該一般断熱改修工事等を行った家屋が一棟の家屋でその構造上区分された数個の部分具有独立して住居その他の用途に供することができるものであって、その家屋の個人がその各部分を区分所有する場合には、当該金額に、当該一般断熱改修工事等に要した費用のうちその者が負担する費用の割合を乗じて計算した金額。）とする。

イ 平成二十一年国土交通省告示第三百七十九号（このイ及びロにおいて単に「告示」という。）
 第一項第一号に定める工事を行った場合 次の表の上欄に掲げる工事の種別及び地域区分（建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令における算出方法等に係る事項（平成二十八年国土交通省告示第二百六十五号）別表第10に掲げる地域の区分をいう。ロにおいて同じ。）に
 応じ、それぞれ同表の下欄に定める額に、一般断熱改修工事等を行った家屋の床面積の合計を乗じて得た金額

工事の種別及び地域区分	単位当たりの金額
告示第一項第一号アに規定する全ての居室の全ての窓の断熱性を高める工事及び同号イに規定する全ての居室の	床面積一平方メートルにつき六千四百円

<p>全ての窓の日射遮蔽性を高める工事のうち、ガラスの交換（1から8地域まで）</p>	
<p>告示第一項第一号アに規定する全ての居室の全ての窓の断熱性を高める工事のうち、内窓の新設又は交換（1、2及び3地域）</p>	<p>床面積一平方メートルにつき一万千八百円</p>
<p>告示第一項第一号アに規定する全ての居室の全ての窓の断熱性を高める工事のうち、内窓の新設（4、5、6及び7地域）</p>	<p>床面積一平方メートルにつき七千七百円</p>
<p>告示第一項第一号アに規定する全ての居室の全ての窓の断熱性を高める工事のうち、サッシ及びガラスの交換（1、2、3及び4地域）</p>	<p>床面積一平方メートルにつき一万八千九百円</p>
<p>告示第一項第一号アに規定する全ての居室の全ての窓の断熱性を高める工事のうち、サッシ及びガラスの交換（5、6及び7地域）</p>	<p>床面積一平方メートルにつき一万五千五百円</p>
<p>告示第一項第一号ウに規定する天井等の断熱性を高める工事（1から8地域まで）</p>	<p>床面積一平方メートルにつき二千七百円</p>

告示第一項第一号エに規定する壁の断熱性を高める工事 (1から8地域まで)	床面積一平方メートルにつき一万九千三百円
告示第一項第一号オに規定する床等の断熱性を高める工事 (1、2及び3地域)	床面積一平方メートルにつき五千七百円
告示第一項第一号カに規定する床等の断熱性を高める工事 (4、5、6及び7地域)	床面積一平方メートルにつき四千七百円

ロ 告示第一項第二号に定める工事を行った場合 次の表の上欄に掲げる工事の種別及び地域区分に応じ、それぞれ同表の中欄に定める額に、一般断熱改修工事等を行った家屋の床面積の合計及び同表の下欄に定める割合を乗じて得た金額

工事の種別及び地域区分	単位当たりの金額	割合
告示第一項第二号アに規定する窓の断熱性を高める工事及び同号イに規定する窓の日射遮蔽性を高める工事のうち、ガラスの	床面積一平方メートルにつき六千四百円	居室の外気に接する窓（既存の窓の室内側に設置する既存の窓と一体となった窓を含む。この欄において同じ。）の

<p>交換（1から8地域まで）</p>	<p>告示第一項第二号アに規定する窓の断熱性を高める工事のうち、内窓の新設又は交換（1、2及び3地域）</p>	<p>告示第一項第二号アに規定する窓の断熱性を高める工事のうち、内窓の新設（4、5、6及び7地域）</p>	<p>告示第一項第二号アに規定する窓の断熱性を高める工事のうち、サッシ及びガラスの交換（1、2、3及び4地域）</p>
	<p>床面積一平方メートルにつき一万千八百円</p>	<p>床面積一平方メートルにつき七千七百円</p>	<p>床面積一平方メートルにつき一万八千九百円</p>

うち上欄に掲げる工事を行ったものの面積の合計を、全ての居室の外気に接する全ての窓の面積の合計で除した割合

<p>告示第一項第二号アに規定する窓の断熱性を高める工事のうち、サッシ及びガラスの交換（5、6及び7地域）</p>	<p>床面積一平方メートルにつき 一万五千五百円</p>	
<p>告示第一項第一号ウに規定する天井等の断熱性を高める工事（1から8地域まで）</p>	<p>床面積一平方メートルにつき 二千七百円</p>	
<p>告示第一項第一号エに規定する壁の断熱性を高める工事（1から8地域まで）</p>	<p>床面積一平方メートルにつき 一万九千三百円</p>	
<p>告示第一項第一号オに規定する床等の断熱性を高める工事（1</p>	<p>床面積一平方メートルにつき 五千七百円</p>	<p>一</p>

、2及び3地域)	告示第一項第一号オに規定する床等の断熱性を高める工事(4、5、6及び7地域)	床面積一平方メートルにつき四千七百円	一
----------	--	--------------------	---

二 租税特別措置法施行令第二十六条の二十八の五第四項の規定に基づき、租税特別措置法第四十一条の十九の三第三項に規定する一般断熱改修工事等の標準的な費用の額のうち、同条第十一項第二号に規定する工事(以下「エネルギー使用合理化設備設置工事」という。)の標準的な費用の額として国土交通大臣及び経済産業大臣が財務大臣と協議して定める金額は、次の表の上欄に掲げる工事の種類に応じ、それぞれ同表の下欄に定める額に、エネルギー使用合理化設備設置工事の箇所数(平成二十五年経済産業省・国土交通省告示第五号(この号において単に「告示」という。))第一項第一号に規定する太陽熱利用冷温熱装置については集熱器の面積の合計)を乗じて得た金額(エネルギー使用合理化設備設置工事を行った家屋の当該エネルギー使用合理化設備設置工事に係る部分のうち、その者の居住の用以外の用に供する部分がある場合には、当該金額に、当該エネルギー

使用合理化設備設置工事に要した費用の額のうちに当該居住の用に供する部分の当該エネルギー使用合理化設備設置工事に要した費用の額が占める割合を乗じて計算した金額（当該エネルギー使用合理化設備設置工事を行った家屋が一棟の家屋でその構造上区分された数個の部分を独立して住居その他の用途に供することができるものであって、その家屋の個人がその各部分を区分所有する場合には、当該金額に、当該エネルギー使用合理化設備設置工事に要した費用のうちにその者が負担する費用の割合を乗じて計算した金額）とする。

工事の種類	単位当たりの金額
告示第一項第一号に規定する太陽熱利用冷温熱装置の設置工事	集熱器一平方メートルにつき十四万円
告示第一項第二号に規定する太陽熱利用冷温熱装置の設置工事	一件につき三十九万一千四百円
告示第二項に規定する潜熱回収型給湯器の設置工事	一件につき九万八千四百円
告示第三項に規定するヒートポンプ式電気給湯器の設置工事	一件につき三十九万三千二百円
告示第四項に規定する燃料電池コージェネレーションシステム工事	一件につき百七十七万八千七百円

システムの設置工事	
告示第五項に規定するガスエンジン給湯器の設置工事	一件につき四十七万八千六百円
告示第六項に規定するエアコンデিশヨナーの設置工事	一件につき九万一千二百円

三 租税特別措置法施行令第二十六条の二十八の五第四項の規定に基づき、租税特別措置法第四十一条の十九の三第三項に規定する一般断熱改修工事等の標準的な費用の額のうち、同条第十一項第三号に規定する工事（以下「太陽光発電設備設置工事」という。）の標準的な費用の額として経済産業大臣が財務大臣と協議して定める金額は、五十三万七千二百円（次の表の上欄に掲げる種類の工事を併せて行う場合には、同表の下欄に定める費用を加算した額）に当該太陽光発電設備設置工事で設置する太陽電池モジュール（平成二十一年経済産業省告示第六十八号に規定する太陽電池モジュールをいう。）の出力を乗じて得た金額（幹線増強工事（単相二線式の引込線を単相三線式に増強し、併せて分電盤を交換する工事をいう。）を併せて行う場合には、当該金額に十万五千円を加算した金額）とする（太陽光発電設置工事を行った家屋の当該太陽光発電設備設置工事に係る部分のうちはその者の居住の用以外の用に供する部分がある場合には、当該金額に、当該太陽光発電設備設置工事に要した費用の額のうち当該居住の用に供する部分の当該太陽光発電設備設置工事に要した費用の額が占める割合を乗じて計算した金額（当該太陽光発電設備設置工事を行った家屋が

一棟の家屋でその構造上区分された数個の部分具有独立して住居その他の用途に供することができるものであつて、その家屋の個人がその各部分を区分所有する場合には、当該金額に、当該太陽光発電設備設置工事に要した費用のうちその者が負担する費用の割合を乗じて計算した金額。）とする。）。

工事の種類	費用
安全対策工事（急勾配の屋根面又は三階建以上の家屋の屋根面に太陽光発電設備設置工事をする場合に、当該太陽光発電設備設置工事に従事する者並びに当該太陽光発電設備設置工事で設置する設備及び工具の落下を防止するため必要となる足場を組み立てる工事をいう。）	五万三千七百円
陸屋根防水基礎工事（陸屋根の家屋の屋根面に太陽光発電設備設置工事をする場合に、当該陸屋根に架台の基礎を設置する部分を掘削して行う基礎工事及び防水工事をいう。）	五万二千五百円
積雪対策工事（太陽光発電設備設置工事で設置する設備が積雪荷重に対して構造耐力上安全であるように太陽電	三万一千五百円

池モジュール及び架台を補強する工事をいう。） 塩害対策工事（太陽光発電設備設置工事で設置する設備 に対する塩害を防止するために必要となる防錆工事をい う。）	一万五百円
---	-------

四 一般断熱改修工事等に要した費用の額に含まれる消費税額及び地方消費税額の合計額に相当する額が租税特別措置法第四十一条の十九の三第四項第一号イに規定する新消費税法第二十九条に規定する税率により課されるべき消費税額及び当該消費税額を課税標準として課されるべき地方消費税額の合計額に相当する額（以下「新消費税額等」という。）と当該新消費税額等以外の額（以下「旧消費税額等」という。）の合計額から成るときにおける前三号に規定する一般断熱改修工事等の標準的な費用の額は、当該新消費税額等に対応する標準的な費用の額の合計額（当該合計額が同項第一号又は第二号に掲げる場合の区分に応じそれぞれ同項第一号イ又は第二号イに定める改修工事限度額を超える場合には、当該改修工事限度額）及び当該旧消費税額等に対応する標準的な費用の額の合計額（当該合計額が同項第一号又は第二号に掲げる場合の区分に応じそれぞれ同項第一号イ又は第二号イに定める改修工事限度額）とする。

附 則（平成二十一年経済産業省国土交通省告示第四号）

この告示は、平成二十一年四月一日から施行する。

附 則（平成二十五年経済産業省国土交通省告示第四号）

1 この告示は、平成二十六年四月一日から施行する。ただし、第一号中「工事の種別及び地域の区分」を「工事の種別及び地域区分」に、「（住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準（平成十八年 経済産業省 告示第三号）別表第1に掲げる地

域の区分をいう。）」を「エネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物（平成二十五年 経済産業省 告示第一号）別表第4に掲げる地域区分をいう。）」に改める部分及び第一号表中 国土交通省

「地域の区分」を「地域区分」に、「IV、V及びVI地域」を「1から8地域まで」に、「I及びII地域」を「1、2及び3地域」に、「III、IV及びV地域」を「4、5、6及び7地域」に、「I、II及びIII地域」を「1、2、3及び4地域」に、「IV及びV地域」を「5、6及び7地域」に、「IからVI地域まで」を「1から8地域まで」に改める部分は、平成二十五年十月一日から施行する。

2 居住者が、所得税法等の一部を改正する法律（平成二十五年法律第五号）第八条の規定による改正前の租税特別措置法第四十一条の十九の三第二項に規定する一般断熱改修工事等をした同項に規定する居住用の家屋（当該一般断熱改修工事等に係る部分に限る。）を平成二十六年四月一日

前に同項の定めるところによりその者の居住の用に供した場合については、改正前のこの告示の規定は、なお従前の例による。

附 則（平成二十八年経済産業省国土交通省告示第三号）

この告示は、平成二十八年四月一日から施行する。

附 則（平成二十九年経済産業省国土交通省告示第五号）

1 この告示は、平成二十九年四月一日から施行する。

2 個人が所得税法等の一部を改正する等の法律第十二条の規定による改正前の租税特別措置法（昭和三十三年法律第二十六号）第四十一条の十九の三第三項に規定する一般断熱改修工事等をした家屋（当該一般断熱改修工事等をした部分に限る。）を平成二十九年四月一日前に同項に定めるところによりその者の居住の用に供した場合には、なお従前の例による。

